

実践のまとめ（第6学年 外国語科）

長岡市立上川西小学校 教諭 白井 啓太

1 研究テーマ

学びの変容を自覚し、既習表現を用いて自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を使って自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うことが求められている。「話すこと[やりとり]」及び「話すこと[発表]」の目標では、「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする」と述べている。ここで述べられている「簡単な語句や基本的な表現」とは、児童がこれまでの外国語学習で学んだ語句や表現（以下、既習表現）であると捉えた。

しかし、これまでの自分自身の実践を振り返ると、児童の「この内容を英語で伝えたい」という思いをうまく生かせていなかったり、既習表現を使えるような単元づくりになっていなかったりした。また、児童が自身の成長を実感できるような振り返りの場を設定してこなかった。そこで、児童が、自己の成長を感じながら、自分の考えや思いを、既習表現を用いて発表したりやり取りをしたりできるようになってほしいという願いから本研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 逆向き設計の単元計画とCan-do Listを含んだ振り返りシートの活用

児童が単元のゴールのイメージを明確にもち、言語活動に必要な表現を児童自身が意識しながら、ゴールに向かって段階的に学んでいく。そのために、振り返りシートの中に、Can-do Listの欄を設け、単元の見通しをもたせるとともに、できるようになったところの欄に色を塗らせることで、できるようになったことを自己評価させ、ゴールに向けて今自分がどのレベルにいるかを自覚させていきたい。そうすることにより、児童は少しずつ必要な表現に慣れていきながら、単元の終末では自信をもってやり取りをすることができると考える。

② 既習表現を活用する場の設定～帯活動としてのサイコロTalkの導入～

本単元では、好きな食べ物やスポーツ等、身近なテーマを設定し、既習表現を使ってペアやグループでやり取りを行わせたり、人物当てクイズをさせたりしていく。英語で話す機会を多くし、英語を話すことへの抵抗感をなくしていきたい。

③ 学びを自覚させるためのICTの活用

児童が既習表現を会話の中で活用できるようにしていくために、オクリンクで、使用した英語を視覚的に整理させたり、発話した英語の回数を記録させたりする。

これまでに学習したことを記録し、確認することで、ある程度のやり取りができることを実感させ、英語で自分の思いを伝えたり、仲間の思いを聞き取ったりすることの楽しさを実感させていきたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

次の2つの観点から評価を行う。

- ① サイコロTalkで自分が英語を何回発話することができたか（あいさつを含む）を記録し、初回と最終回で発話回数が伸びている児童の割合が80%以上（オクリンクのカード）
- ② サイコロTalkの最終回までに、発話した回数が7回以上（あいさつを含む）続く児童の割合が70%以上になる。（オクリンクのカード）

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「仲間の意外な一面を紹介し合おう！」

Unit 5 He can run fast. She can do kendama. (Here We Go 5年 光村図書)

(2) 単元（題材）の目標

- ・既習表現を用いてコミュニケーションを図り、互いのペアをクラスの仲間に紹介し合う活動を通して、第三者ができることについて伝えることができる。

【小学校学習指導要領（外国語）第2章第2節1－（4）】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> ・ Can you ~?、 He (She) can/can't ~. の表現について理解している。 <技能> ・ Can you ~?、 He (She) can/can't ~. の表現を用いて、できることやできないことを伝え合う技能を身に付けている。	・ 自分のペアについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、聞き取った情報を整理しながら、仲間と紹介し合うとともに、これまでの体験や学習とつなげながら自己表現している。	・ 自分のペアについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、仲間と紹介し合うとともに、これまでの体験や学習とつなげながら自己表現しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全7時間、本時5／7時間）

	○主な学習活動	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準<評価方法>
7	○相手のペア紹介を聞いて、びっくりポイントを評価する。 ○自分のペアを紹介するやり取りをする。	○	○	○	◎簡単な語句や表現を用いて、互いのペアについて仲間に紹介することができる。<パフォーマンステスト、行動観察>
6	○スライドに合わせて話す練習をする。 ○ペアを紹介するスライドを作成する。	○	○	○	

5 本 時	○グループの仲間と伝え合い、必要に応じて修正する。 ○聞き取った情報を整理する。 ○ペアにインタビューする。				第1～5時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
4	○イメージマップにペアにインタビューすることをまとめる。 ○人物当てクイズをする。 ○教科書の登場人物ができることについて聞き取る。				
3	○予想ゲームで仲間のできること・できないことを予想し、尋ね合う。 ○くわしく説明する言葉（副詞）等を使って、ジェスチャークイズをする。				
2	○教科書の登場人物ができることについて聞き取る。 ○ジェスチャークイズをする。				
1	○ストーリー（動画）を見て、本単元でどのようなことをするのか見通しをもつ。 ○ジェスチャークイズをする。				

4 単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

児童は、5年生に進級し、新たな仲間と学校生活を送ってきている。これまで、授業や様々な体験活動等を通して、互いにどんな人物であるかをある程度理解している。その一方で、自分のことを仲間に伝えるのが苦手な児童がいたり、他と関わりが少ない児童が存在したりする等、人間関係が広がりにくい状態でもある。そこで、本単元のゴールを、「既習表現等を用いて、クラスの仲間や別のクラスの人に、自分のペアの意外な一面について英語で紹介すること」と設定し、自分の隣に座るペアができること（得意なこと）について、クラスの仲間に伝えたり、相手のペアについて聞いたりする活動を組んでいく。また、自分のペア紹介を聞いてもらった相手から、どれくらい驚いたかを、「びっくりポイント」で判定してもらい、「たくさんびっくりポイントをもらおう」という目的意識をもたせていく。

本単元を通して、これまで気付かなかったクラスの仲間の意外な一面を知り、これまで以上にクラスの仲を深めていこうという気持ちを育てる学習となることが期待できる。

また、児童はこれまでの学習で、様々な表現に触れ、仲間や様々な相手と交流してきた。その中で、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現に多く触れ、一人称や二人称で思いや考えを伝え合ってきた。本単元で三人称を導入することで、表現の幅が広がることを実感させ、いっそうコミュニケーションへの関心を高めることができると考える。

(2) 児童の実態（計33人）

外国語科の授業では、積極的に声を出し、初めて習う英語に慣れようとする姿が多く見られる。ゲーム等に楽しく参加する児童も多い。一方で、英語で会話を続ける経験が少なく、英語を話すことに自信がもてない児童もいる。本単元では、帯活動としてSmall Talkを取り入れ、英語を話す機会を継続的に増やす。これまでの外国語の学習の知識を用いることで、ある程度の英語のやり取りができることを実感させ、振り返りながら自己評価していく。こうした自己評価を積み上げていくことで、児童が自己の学びを自覚し、学習を積み上げていくことで、自信をもって英語で自分の思いを伝えたり、仲間の思いを聞き取ったりすることの楽しさを実感できるような単元にしていきたい。

5 本時の展開 (令和4年10月13日実施)

(1) ねらい

ペアの意外な一面を引き出すためのインタビューをもとに、情報を整理し、He/ She is ～. He/ She can ～.等の基本的な語句や表現を用いて、互いのペアについて紹介することができる。

(2) 展開の構想

①帯活動としてのサイコロTalk

- ・児童が自身の生活とつなげやすいテーマでサイコロ Talk を行う。テーマを意識した会話で既習表現に慣れ親しませることにより、ペア紹介の中で必要な英語が自然に出てくるようになることが期待できる。

②学びを自覚させるためのICTの活用

- ・サイコロ Talk において、オクリンクのカードを使用する。カードには、これまでの単元の既習表現を用意しておく。カードは、「未使用」「1回使った」「2回以上使った」の3つのステージに分かれている(図1)。児童は、サイコロ Talk の会話で使用した表現をスライドさせていく。また、児童がどのくらい発話したかを記録

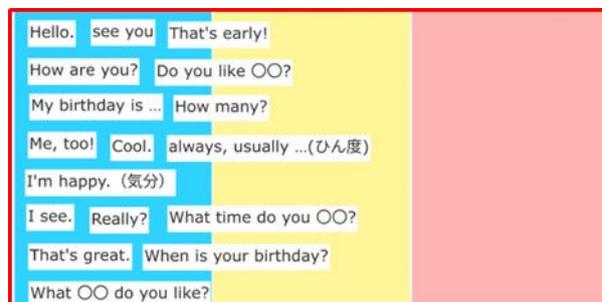


図1 児童が使用したオクリンクのカード

するカードも用意し、数値としての成長も感じられるようにしていく。これらの活動を通して、視覚的に成長を自覚させることができると考える。

③自信をもってやり取りをさせるためのペア学習の場の設定

- ・考えたやり取りの流れが、実際にうまくいくか、ペアで確認し、お互いにアドバイスをし合う場を設定する。グループの仲間と伝え合うことで、実際のコミュニケーションがより身近になり、修正点も明らかになると考える。自信をもってやりとりをするためのゴール活動に向けた足掛かりとしたい。

(3) 展開

時間	○学習活動 T 教師の働きかけ C 予想される児童の反応（行動）	・留意点
Warming up 10分	<p>○あいさつ</p> <p>○サイコロ Talk</p> <p>※「好きな食べ物」が出た場合</p> <p>T 1 : Last weekend, I went to a Ramen shop. Do you know <i>Aokiya</i>?</p> <p>C 1 : Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>T 2 : I like Ramen. I love <i>Shoga joyu ramen</i> in <i>Aokiya</i>. What food do you like, ○○さん?</p> <p>C 2 : Mmm... I like Yakiniku.</p> <p>T 3 : ○○さん, Thank you. 今日は「さらに質問」を意識して Small Talk をしましょう。</p> <p>C 3 : (ペアで食べ物をテーマに話をする。)</p> <p>○本時のゴールを知る。</p> <p>T 4 : 今日は、ペアにできることをどんどんインタビューして、意外な一面を引き出していきます。</p> <p>◎質問タイムで意外な一面を引き出そう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをする。 ・サイコロ Talk は <ul style="list-style-type: none"> ①教師⇔児童 ②児童⇔児童の順で行う。 ・どんな追加質問をしたらよいか児童から引き出す。 Do you ~? Can you ~? ・制限時間 2分 ・本時のゴールを児童と確認しながら板書する。
Activity 1 15分	<p>○必要な情報を集めるために、ペアにインタビューする。</p> <p>T 5 : モデル動画を見ましょう。</p> <p>Hello! Question, OK?</p> <p>Can you cook? – Yes, I can.</p> <p>Oh, nice. Can you cook <i>nikujaga</i>? – No, I can't.</p> <p>Can you cook hamburg steaks?</p> <p>– Yes, I can. I can cook <i>cheese hamburg steaks</i>.</p> <p>Wow. That's nice!</p> <p>(動画でモデルを示し、ポイントを確認する。)</p> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイコロ Talk で習ったこと (あいさつ、リアクション等) ・Yes, I can. を引き出した後、追加で質問すること。 ・No, I can't. と相手が言ったら無視せず、フォローすること。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューに入る前にモデル動画を全員で見せて、見通しをもたせる。 ・ポイントを児童から引き出す。 ・机間巡視で、思うように質問できない児童を支援する。

	<p>C 4 : (モデルを参考にペアとインタビューし合う。)</p> <p>T 6 : (時間が来たら) It's time to stop. みなさん、いくつ相手から情報を聞き取ることができましたか? (子どもから引き出す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 上手にやりとりしているペアを褒める。
Activity 2 15分	<p>○聞き取った情報を整理し、ペア紹介を個人練習する。</p> <p>T 7 : ペアから聞き取ったことをもとにどう紹介するか、流れを考えましょう。流れができたなら、口に出してみましよう。Let's start thinking!</p> <p>C 5 : (インタビューで聞き取った情報がメモしてあるワークシートを見ながら発表の流れを考える。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 机間巡視をしながら、悩んでいる児童に声を掛ける。
	<p>T 8 : (3分後) Stop, please. Look at me. 紹介する順番で少し悩んでいるお友達がいたので、みなさん教えてください。ペアから聞き取ったことを、どの順番で紹介したら、相手がワクワクしてくれるかな?</p> <p>C 6 : みんながすでに知っているようなことから紹介したら良いと思います。</p> <p>C 7 : 自分が意外だなと思ったことは後で紹介したら相手がワクワクしてくれると思います。</p> <p>T 9 : そうですね。みんなが知っている情報を先に、意外だと感じた情報は後に紹介していくと、聞き手もワクワクしながら聞くことができそうですね。それでは、自分のワークシートに、紹介する順番に「①②…」と赤ペンで書き入れましょう。書き入れた人は、口に出してみましよう。</p> <p>C 8 : (ワークシートに①②…を書き入れ、口に出す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 順番で悩む児童がいない場合でも、一旦作業を止めさせ、全体共有をする。 • 話す順番を意識させることで、自分が紹介する見通しをもたせる。 • 紹介の仕方で悩んでいる児童には個人端末でモデル動画を参考にさせる。
	<p>○グループの仲間と伝え合う練習をする。(5分)</p> <p>T 10 : 自分が考えた順番で、グループの仲間に実際に紹介してみましよう。</p> <p>C 9 : (グループの仲間と紹介し合う。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 聞き手はあいづちをうったり質問したりすることを確認する。

Reflection 5分	○本時の振り返りをする。 T11： <u>ペアにインタビューしたことと、びっくりポイントをたくさんもらうためにはどうしたらよいかについて振り返りシートに書きましょう。書いた人は、Can-do Listの今日できたことの欄に色を塗りましょう。</u> C10：〇〇さんにインタビューしてみて、〇〇さんが、～できることを初めて知りました。 C11：〇〇さんが～できることを、ジェスチャーを大きさに付けながら紹介していこうと思います。	・「インタビューしたことについて」、「びっくりポイントをたくさんもらうためにどうしていくか」の二つのポイントで振り返りを書かせる。
----------------------	---	---

6 実践を振り返って

(1) 指導の実際

① サイコロTalk(Small Talk)の導入とゴールの提示（1時間目）

サイコロTalkを使ったSmall Talkが初めてだったため、活動前に、手順とルールのご共通理解を図った。オクリンクのカードで、自分が使用した英語表現を移動させること、英語を何回発話することができたかを記録することも確認した。児童は、出たサイコロの目によって、トークテーマが変わることを楽しみながら活動した。振り返りには、「サイコロTalkをして楽しかった。」、「オクリンクのカードにある英語を使うことができた。」、「この前よりもたくさん英語が言えた。もっと言えるようにしたい。」などの記述が見られた。（図2）

サイコロTalkの後、単元のゴールと学習内容を提示した。児童がゴールの姿をイメージしやすいように、教師のモデル動画を見せたことにより、ゴールでペアの意外な一面を紹介するために、どんな力を身に付けるのかという見通しをもつことができたと考え

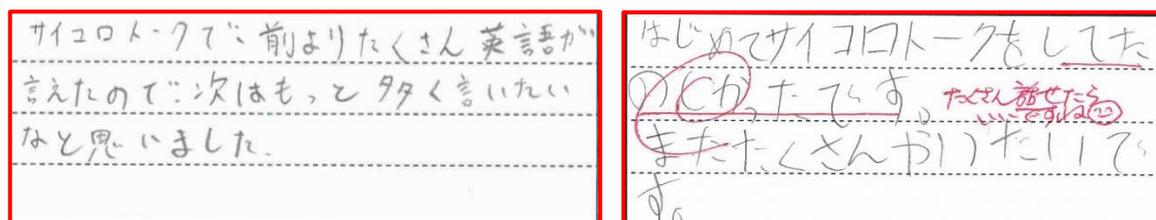


図2 児童の振り返りシートの記述

② 基本的な表現への慣れ親しみ（2～3時間目）

ゴールの活動に必要な表現を身に付けていくため、ジェスチャーゲームや教科書にある推理ゲームなどを行い、動作やできることを伝えるときの英語表現について学習した。ゲームを通して何度も声に出すことにより、新出の単語もすらすらと言えるようになったり、Can you ～? Yes, I can./No, I can't. I can ～.の表現にも慣れてきたりした。

③ ペアの意外な一面を引き出すための質問タイムと紹介する準備（4～6時間目）

ゴールの活動に必要な表現に慣れてきたところで、ペア紹介に向けての準備を始めた。初めに、ペアへの質問を考えた。「Can you play games?」と尋ねて「Yes, I can.」とペアの人が答えたら、「Can you play (具体的なゲームの名称)?」と追加質問

するような児童も多くいた。また、サイコロTalkで何度も言っている「What～do you like?」「Do you like ～?」などの質問を追加している児童もいた。

次に、考えた質問をもとにペアインタビューをした。サイコロTalkで会話をつなげる練習をしてきたこともあり、相手の返答に反応しながら質問をしている児童が多かった。相手の返答を聞き、驚いている様子も見られた。振り返りシートには「ペアの意外な一面が分かった。」「とってもいいびっくりポイントをつかめた。」「〇〇さんがハンバーグを作れるのがびっくりした。」などの記述が見られた。

最後に、ペアを紹介するためのスライドを作成した。文字は入れずに画像だけを入れるようにした。スライドが完成した後は、スライドに合わせて紹介する練習をした。

④ ペアの意外な一面を紹介し合う（7時間目）

タブレットを持ち運び、学級の仲間とお互いのペアについて紹介し合った。最初は、緊張して、言うだけで精いっぱいだった児童も、回数を重ねるごとに自信をつけていき、ジェスチャーをつけるなど、意欲的に紹介し合う場面が見られた。

(2) 研究テーマに関わる成果

① サイコロTalkが終わった後、自分が英語を何回発話することができたか（あいさつを含む）をオクリンクのカードで記録した（図1）。カードには既習の表現が15個程度置いてあり、サイコロTalkの中で1回使用したら青のゾーンから黄色のゾーンに、2回以上使用したら黄色ゾーンから赤ゾーンに移動させるようにした（図3）。初回と最終回で比較し、最終回の方が伸びている児童の割合は84%だった。使用した表現を移動させることにより、視覚的に自分の成長を感じることができた。



図3 授業後に児童が提出したカード

② 毎時間、サイコロTalkが終わった後、発話回数を表に記録した（図4）。6回目であいさつを含む発話回数が7回以上の割合は78%、10回以上続いた児童の割合は67%だった。全員が、初回のサイコロTalkよりも発話回数を増やすことができた。既習表現を使用して、会話することへの自信をつけることができたと考える。トークテーマが、「好きな〇〇は？」のときは、発話回数が増えたが、「誕生日にほしいものは？」や「どんなお手伝いしている？」のときは、あまり伸びなかった。トークテーマによっても回数が増減することが分かった。

回数	8回	10回	15回	16回
回数	21回	23回		

回数	4回	6回	4回	8回
回数	10回	6回		

回数	5回	5回	6回	5回
回数	5回	11回		

回数	8回	12回	15回	19回
回数	22回	25回	28回	

回数	5回	4回	5回	5回
回数	6回	8回	12回	

回数	4回	8回	12回	4回
回数	7回	8回	7回	

図4 児童が提出したカード

(3) 今後の課題

① Can-do Listを含んだ振り返りシートについて

授業の流れ	めあての振り返り	Can-Do List
1時間目 ◎単元のゴールを知り、いろいろな動作を表す言い方を知る。 ① 動画を見て、顔・人物・使われている英語について確認する。 ② 単元のゴールを知る。 ③ いろいろな動作を表す言い方を覚える。 ④ 動作を表す言い方に慣れるゲームをする。(Gesture game)	・この授業でできるようになったこと。(◎を意図) ・課題。次の時間にがんばりたいこと。疑問。 ぼくは、たにがてまきま びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる	動作を表す英語を5つ以上言える。 Can you ~? Yes, I can. / No, I can't. を使い、できることについて尋ねたり、答えたりすることができる。
2時間目 ◎できることを尋ねる表現を知る。 ① いろいろな動作を表す言い方を復習する。 ② 動作を表す言い方に慣れるゲームをする。(Gesture game) ③ 「Let's watch.」「Let's listen.」→答え合わせ ④ 「Let's chant.」 Can you ride a bicycle?	ぼくは、たにがてまきま びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる	I can ~. He/She can ~. を使って、自分や他の人ができることについて話すことができる。 習った表現を使ってペアに質問し、ワークシートにまとめることができる。
3時間目 ◎できることについてすらすら尋ね合える。 ① いろいろな動作を表す言い方を復習する。 ② 動作を表す言い方に慣れるゲームをする。(Gesture game) ③ 予想ゲームペアのできること・できないことを当てちやおう。 →①予想 ②質問 ③ペアを替えて (SP質問してもOK)	ぼくは、たにがてまきま びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる	スライドに合わせて、ペアを紹介する練習ができる。 Let's write. (p. 65, 67)に自分や仲間ができることを正しく書き写すことができる。
4時間目 ◎クイズの中でできることをすらすら言える。 ① 「Let's watch.」「Let's listen.」→答え合わせ ② 「Let's chant.」 I can play baseball. ③ 人物当てクイズ ※難しいヒントから先に ④ ワークシートにペアに聞いてみたいことをまとめる。	ぼくは、たにがてまきま びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる びとを英語がわかる	仲間の紹介を、反応しながらか聞くことができる。 習った表現を活用し、自分のペアを紹介することができる。(P)

図5 振り返りシート

振り返りシートの中に、Can-do List (上図の太枠で囲んだ部分) を設け (図5)、できるようになったところに色を塗ることにより、ゴールまでの現在の状態を知ったり、徐々に成長している自分に気付いたりすることができた。また、振り返りを書く視点を与えることで、どの児童も毎時間の成長について記述できるようになった。さらに成長を自覚できるように、単元を通して、毎時間同じ項目で自己評価できるように、振り返りシートの改善を図っていく。

② 自己の学びを自覚させるためのICT活用について

本単元では、サイコロ Talk を導入し、テーマを意識した会話で既習表現に慣れ親しむことができた。また、オクリンクを活用し、使用した英語をカード上で整理したり、発話し

た英語の回数を記録したりすることで、視覚的に成長を自覚することができた。しかし、サイコロ Talk 中に、教師が用意した以外の表現を使用した場合に移動させるカードがないために新しい表現を単元の途中で追加することができない場面があった。児童が自分で表現を追加したり、教師が新しい表現のカードを追加したりできるような、児童と教師の両者にとって、より使い勝手の良いものに改良していく必要がある。

<参考・引用文献>

文部科学省.「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」.開隆堂.2017

文部科学省.「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」.旺文社.2017

菅正隆.「小学校外国語新3観点の評価作りガイドブック」.明治図書.2020

瀧澤広人.「英語教師のためのTeacher's Talk & Small Talk 入門」.明治図書.2019

望月正道・相澤一美・投野由紀夫.「英語語彙の指導マニュアル」.大修館.2003